



曹洞宗管長
大本山永平寺貫首

ふくやまたいほう
福山諦法

梅開早春



梅花新聞【香里】
第38号

題字 管長 福山諦法禪師
発行者 釜田 隆文
発行所 曹洞宗務庁
企画編集 伝道部詠道課

新年明けましておめでとうござい
ます。

祖山仏殿の前庭に、紅白一對の老
梅樹があります。時節の到来のまま
年毎に、嫩芽どんがを生じ蕾つぼみをつけて、ほ
どなく一輪二輪と花を咲かせます。
梅は早春を開く所以です。陰暦では
立春は新年にもあたりますので、梅
は松竹に加えて正月にふさわしい樹
木とされました。

香里とは花も香りも高雅な梅花の
家郷を指すと思います。まして雪裏
に凜と咲く梅は私たちの生きる指標
ともなります。

梅花流の詠道は仏道を行ずること
に外なりません。三宝を敬い仏祖の
御教えを学んでいれば、謙虚でしか
も智慧の具わる人となるでしょう。
宗門の詠讃歌は布教伝道の大きな役
割を担っています。創設以来多くの
方々が努力と研鑽を重ねて、今日ま

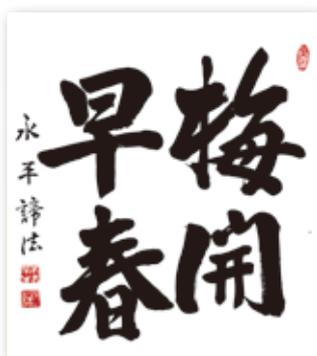
お誓い

- ・私達は梅花流詠讃歌を通して、
正しい信仰に生きます。
- ・私達は梅花流詠讃歌を通して、
仲よい生活をいたします。
- ・私達は梅花流詠讃歌を通して、
明るい世の中をつくります。

での発展に尽くされました。その徳行を忘れ
る訳にはいきません。老梅樹の一華が五葉を
開き、古今にわたり無数に華を点じつづけて
まいりました。梅花の名を頂いていることの
喜びを感じます。

梅花講員みなさまには、お誓いの文に即し
て和合を旨とし、上手に流れず下手に屈せず
三宝帰依の念を篤くもち、真心をもってお唱
えください。詠唱における所作すべてにおい
て、宗旨に適った威儀が人々の心をうつこと
でしよう。梅花の詠道を通じて一仏両祖の正
法をお伝えください。

平和な香里に
春風が吹き渡
り、笑顔の花が
咲きますことを
祈念して挨拶と
いたします。





平成二十七年 度

梅花流全国奉詠大会



●平成 27 年 5 月 27 日・28 日
神奈川県パシフィコ横浜

平成二十七年五月二十七日・二十八日の二日間、神奈川県「パシフィコ横浜」を会場に平成二十七年 度梅花流全国奉詠大会が開催されました。大本山總持寺二祖峨山韶禪師六百五十回大遠忌の年の開催となった今大会は、大本山總持寺二祖峨山韶禪師六百五十回大遠忌奉讃奉詠が行われ、二日間で九千人を越える参加者を集めました。

オープニング

大梵鐘が打ち鳴らされた後、横浜中華学校校友会国術団の演奏にあわせ二頭の中国獅子が登場、副大会長の横井真之伝道部長が獅子に導かれステージ中央に進み、高らかに開会を宣言しました。

その後、地元横浜市の三松幼稚園、總持寺保育園の園児の皆さんが登場し「ののさまに」・「のんののののさま」の可愛らしい合唱と献灯献花を披露。整列してのご挨拶に会場から大きな拍手と歓声が

あがりました。

第一部 開会式

会場の全員で「三宝御和讃」をお唱えする中、大本山永平寺貫首・福山諦法禪師さま、曹洞宗管長大本山總持寺貫首・江川辰三禪師さまが入堂されました。

拈香法語に引き続き般若心経が唱えられた後、「大聖釈迦牟尼如来讚仰御詠歌（高嶺）」の奉詠が行われました。

また、昨年は戦後七十年目の節目であり、戦災でお亡くなりになられた方がたと、自然災害で亡くなられた方がたのご冥福を祈り、「自然災害被災物故者諸精霊並びに戦後七十年追悼法要」が福山禪師さまご親修のもと厳かに行われ、読経に引き続き会場中が心を一つに「追善供養御詠歌（妙鐘）」をお唱えしました。

その後、曹洞宗管長・江川辰三禪師さま、大本山永平寺貫首・福山諦法禪師さまと会場の参加者と





の相見の拝が行われ、江川辰三禪師さまより「梅花講員の方々の奉詠によって、曹洞宗の礎を築かれた峨山禪師さまをお讃え申し上げ、報恩感謝の誠を捧げていただきたい」との御垂示を賜りました。

第一部 式典

第二部の式典では、大会長である釜田隆文宗務総長が「恒久平和と被災地の早期復興を願い、全ての人びとと寄り添い、助け合いながら歩んでいくという誓いの心で、お唱えいたしましょう」と式辞を述べられました。

引続き、地元神奈川県を代表し、一日目は陽道雄神奈川県第一宗務所長、二日目は、程木昭徳神奈川県第二宗務所長が地元梅花講員とともに感謝と歓迎の意を述べられました。

お誓いは、一日目が神奈川県秦野市玉伝寺講 小泉時江さん、小泉セツ子さん、須山満子さん、二日目は綾瀬市報恩寺講 笠間綾子さん、茅ヶ崎市玄瑠寺講 古菅ヒロ子さん、海老名市龍昌院講 小島久子さんに挙唱司をおつとめいただきました。

第二部 登壇奉詠

大会両日ともに十二組ずつの登壇となり、日々詠道を重ねた成果を発表されました。各組百名の代表登壇者以外の参加者も自席にてお唱えされるなか、本年より登壇奉詠の合間に各地から寄せられた応援のビデオメッセージが映し出されました。

第四部 大本山總持寺

二祖峨山韶碩禪師 六百五十回大遠忌 奉讃奉詠

石川県・能登の伝統芸能である「御陣乗太鼓」(県無形文化財)の迫力溢れる演奏で幕が開かれると、飯面雅子氏によるサンドアートパフォーマンスがスクリーンに映し出され、次々と移り変わる峨山禪師の砂絵物語に会場全体が引き込まれました。

続いて大本山總持寺から参列の雲水四十人による「大悲心陀羅尼」の真読に合わせて大本山永平寺貫首・福山諦法禪師さま、曹洞宗管長・江川辰三禪師さまが入堂されました。「大本山總持寺二祖峨山禪師讚

仰御和讃」では、詠題司を江川辰三禪師さま自らがお勤めになられ、参加者全員こころを一つにして峨山禪師の御遺徳を讃えました。

その後、特派師範により「大本山總持寺二祖峨山禪師讚仰御詠歌(永光)」が奉詠され、江川禪師さまは「峨山禪師のご遺徳を感じ、相承の大切さを受け止めていただきたい。今後も詠讃歌を通じてあまねく自他を利する安樂の境涯をともに分かち合って参りましょう」とお示しになりました。

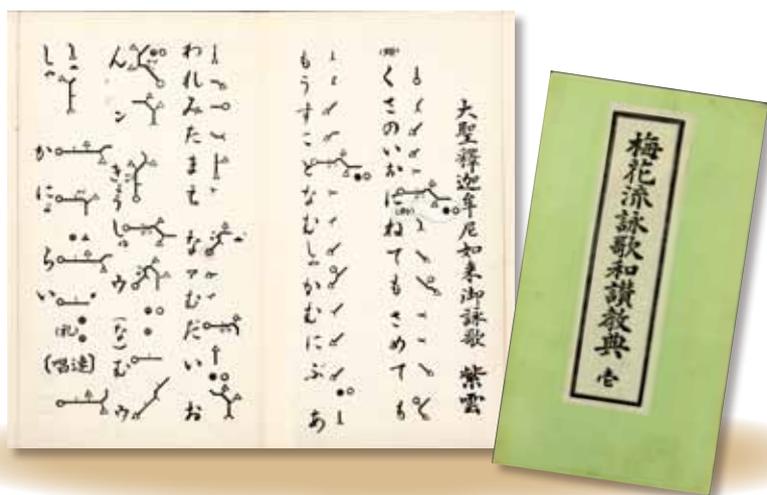
第五部 閉会式

詠讃師による『坐禪御詠歌』(浄心)独詠のなか、心静かに椅子坐禅をした後、副大会長の横井真之伝道部長より閉会のご挨拶がありました。続いて次回開催地である富山県宗務所の伍香修道所長が「北陸新幹線が開通し、大変賑わっている富山に是非お越しく下さい」とご挨拶され、多くの方がたの参加を呼びかけられました。

最後に、参加者全員による「まごころに生きる」の大合唱で大会のフィナーレがかざられ、盛会のうちに幕を閉じました。

知っていますか？ 梅花流の歴史

曹洞宗総合研究センター 梅花流詠讚歌研究プロジェクト



上の写真をご覧ください。これは、梅花流が誕生した際に、最初にできた教典なんです。

曲は「大聖釈迦牟尼如来御詠歌（紫雲）」です。

よく見ていただくと、現在の梅花譜と少し違うのがわかります。たとえば、冒頭の「くさの」の「く」の音符は、現在は棒が左の方向に向いていますが、この譜面では棒が上の方向に向いていることがわかります。

じつは、この教典ができた当時は、まだ梅花流独自の譜面がなかったのです。梅花流は、昭和二十六（二十七年あたり）に生まれたのですが、最初は真言宗智山派の「密厳流」という流

派をお手本としていました。「紫雲」は密厳流の「木揚きあげ」という曲に詩をつけて、梅花流の曲として発表されたのです。

ほかにも、「梅花」「溪声」「法灯」など合計九つの曲が、このときに生まれています。密厳流から伝わっているのが、「伝承曲」と呼んで今でもお唱えています。

さて、曹洞宗総合研究センターでは梅花流の歴史や意義、現代の人びとに親しんでいただくための方法などについて考えるプロジェクトを立ち上げました。これからも発足当時の事柄をいろいろ調べていきたいと思っております。

梅花流の教典、レコード、冊子を探しています！

上の写真一枚からもたくさんの方がわかるように、梅花流が誕生した昭和 20～30 年代にかけて作られた教典やレコード、カセットテープあるいは梅花流に関係する地域の会報誌などは、現在ではとても貴重な資料です。もし、これらをお持ちの講員さん・ご寺院がありましたら、研究の資料とさせていただきますのでご一報いただけましたら幸いです（拝見させていただいた後は必ず返却いたします）。

こんな方は是非！

- 亡くなったおばあちゃんが持っていた、よくわからない古い教典やカセットがある。
- 先代住職が行っていたころの通知類や冊子があるが、処分していいか困っている…。

お問い合わせ／03-3454-7170（曹洞宗総合研究センター）



霊峰斜里岳の麓にある禪龍寺に、『つぼみ会』が誕生したのは今から五年前の冬の頃でした。梅花を始めたばかりのお檀家さんの二人のお孫さんが、おばあちゃんと一緒に、お寺へ行く事が楽しみで、ご詠歌のお稽古の間、側でそのお唱えを聞いていました。そのうちに、お寺の三人の子どもたち

と一緒に、五人そろって「プレセントに法具を買って!!」との嬉しいリクエストがあり、子どもたち五人でのお唱えがかわいらしく響くようになり、ご一緒にお稽古をして他の講師さん方と一緒に様々なお話をさせていただく事も、楽しみの一つとなっております。

子どもたちの素直で一生懸命な姿は、他の講師さんにも多くのエネルギーを分け与えてくれるようです。いつも笑顔がかわいらしい子どもたちも、お稽古の時は真剣で、ぐんぐん上達していく姿に励まされて、講師さん皆で一生懸命お唱えをさせていただきます。

六十周年の梅花流全国奉詠大会に参加させていただいた時には、藤色のTシャツを着たかわいらしい『つぼみ会』の五人が大きな会場でお唱えをさせていただく姿に、感動と感謝で胸が一杯になった事を思い出します。

当時、五歳、二年生、四年生、五年生だった五人も、今ではそれぞれに活動の範囲が広がり、なか



なかそろってお稽古することは難しくなっていました。年間法の要の中で、すっかり上達したお唱えをきかせてくれています。

『つぼみ会』の中のお二人のお檀家さんのお孫さんが「お寺に来ると、心がホッとして気持ちいい」と話してくれます。おばあちゃんと一緒に、梅花に親しんでいただいた時間は、お二人のお孫さんの人生にとって、かけがえのない宝物になることと思います。そんなすばらしい姿を側で拝見させていただいている講師の皆さま方も、一緒に貴重な時を過ごさせていただいております。

(北海道 禪龍寺 門田真由美)

子ども登壇

佐賀県梅花流奉詠大会の子ども登壇は、後継者を育てる事を目的として3年前に始まりました。今年、子どもだけではなく、講師さんやお母さんも一緒に登壇して頂き、家族の想い出となるように企画しました。





永光 歌碑 除幕式



石川県輪島市の大本
山總持寺祖院の境内、
峨山道入口のすぐ近く
に新たな歌碑が建立さ
れました。

この歌碑建立は、峨
山韶碩禪師の六百五十
回大遠忌を迎えた平成
二十七年梅花流全国
奉詠大会の記念事業と
して企画されたもの
で、峨山禪師が修行さ
れ、曹洞宗の教えを全
国に広められた拠点で
ある能登の地から、梅
花流が更に発展するよ
うにとの願いが込めら
れています。

石碑には、曹洞宗管
長大本山總持寺貫首・
江川辰三禪師御揮毫に
よる『大本山總持寺二

祖峨山禪師讚仰御詠歌（永光）』
の歌詞が刻まれており、平成
二十七年九月十八日、大本山總持
寺祖院においてその除幕式がとり
行われました。式には、梅花流専
門委員と全国より参集した梅花流
特派師範有志一同、地元梅花講
員・師範会の他、同日まで祖院に
て開催されていた宗務庁主催講習
会受講者の大勢の参加をいただき
ました。

法要では横井真之伝道部長が導
師を務め、地元梅花講員が除幕を
行い、読経の後、百名を超える参
加者全員で『永光』をお唱えしま
した。また、大本山總持寺祖院鈴
木永一監院老師、石川県宗務所長
藏定伸老師、横井真之伝道部長が
それぞれ挨拶なされ、一同が峨山禪
師に思いをはせる式となりました。
能登を訪れの際は是非お立ち寄
りください。



アクセス

石川県輪島市門前町門前 1-18-1

TEL

0768-42-0005

HPあり

<http://www.wannet.jp/noto-soin/>

能登空港より車で約 30 分、
金沢駅よりバスで約 2 時間半



高野山金剛流と梅花流が交流



▲梅花流のお唱え

参加された講員さんにご感想をお伺いしたところ、「大変貴重な機会。精一杯お唱えした。」「よその流派のお唱えを初めてみたが、同じ『御詠歌』として梅花流と他流派とのつながりを感じた。」などのさまざま感想が寄せられ、参加された男性講員さんは、「お唱え・所作に各流派それぞれの特徴があり刺激になったが、梅花流が私には合っていると感じる」とおっしゃっていました。

高野山開創千二百年記念並びに
高野山金剛講九十周年記念

全国奉詠舞大会

二〇一五(平成二十七)年十月六日(九日、和歌山県高野山において『高野山開創千二百年記念並びに高野山金剛講創立九十周年記念慶讃全国奉詠舞大会』が開催され、梅花流も記念式典にご招待いただきました。

記念式典第一部の交流奉詠では、金剛流の他、梅花流・叡山流・密厳流・花園流が登壇し各流派のお唱えを披露され、梅花流からは、福原利行・小池泰元の両梅花流特派師範と大阪府安養寺講員の合計十九名が「三宝御和讃」「大聖釈迦牟尼如来御詠歌」を披露しました。

▼金剛流のお唱えと舞踊

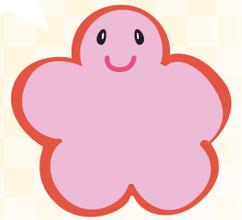


続く第二部は金剛流による特別奉詠舞『阿字の道』が披露されました。金剛流流祖曾我部俊雄和尚の創流からの思いを、御詠歌と舞踊による物語形式で表現したもので会場全体が感動に包まれました。

金剛流は一九二六(大正五)年に誕生し、後に続く流派に影響を与えてきたという歴史があり、梅花流創立の際に指導を受けた密厳流もその一つです。これからも、他流派との交流を深めて行きたいものです。

ばいぐるみの

つぶやき



梅花を始める理由は
人それぞれ。
みなさんのきっかけは
何ですか？

講師の方々に伺ってみると、
●お寺の法要や大本山での御授戒で聴いて
●生活の中で自分の時間ができたので
●お寺へお参りするきっかけとして
などなど数多くお答えをいただくことができました。

始めた理由はさまざまでしたが、皆さまに共通して
いたのは、「梅花が好き」「これからも梅花を続け
ていきたい」というお気持ちです。

そんな素敵な梅花流、ぜひより多くの方々に知っ
てもらいたいですね！

法要や行事などにお唱えを取り入れるお寺もま
ます増えていますし、お休みしていた講でも、ご住
職と講師さんが一致団結して活動を再開しお仲間
増やし続けているところもあります。

みなさんのお唱えが、まだ梅花を知らない誰かの
「きっかけ」となることと思います。

詠道課便り

●二級教範の受検について

平成二十七年より、二級教範の受検
が宗務所検定でもできるようになりまし
た。詳細につきましては、所属の講長さ
ままでお問い合わせください。

●梅花服について

この度「夏用梅花服」の生地を変更さ
せていただくことになりました。小・中
サイズは既に新しい生地のものが販売さ
れ、大・特大サイズも従来の在庫がなく
なり次第新しい梅花服を販売する予定で
す。

※価格・申込方法は従来どおりです。

●教階特別昇等について

大本山總持寺二祖峨山韶
碩禪師六五〇回大遠忌を記
念し、梅花講の発展に功績、
功労があり、他の範となる
講員に対し、一教階の昇等
を行います。下記一覧表の
条件に該当する方が昇等の
対象者となります。詳細に
つきましては所属の講長さ
ままでお問い合わせください。

現教階	昇等できる 教階	現教階の 補任日	生年月日
二級師範	一級師範	平成8年 3月31日以前	昭和21年 3月31日以前 (70歳以上)
三級師範	二級師範	平成8年 3月31日以前	昭和21年 3月31日以前 (70歳以上)
一級詠範	正流詠範	平成8年 3月31日以前	昭和11年 3月31日以前 (80歳以上)
二級詠範	一級詠範	平成8年 3月31日以前	昭和21年 3月31日以前 (70歳以上)
三級詠範	二級詠範	平成8年 3月31日以前	昭和21年 3月31日以前 (70歳以上)
一級教範	正詠教範	平成8年 3月31日以前	昭和11年 3月31日以前 (80歳以上)
二級教範	一級教範	平成8年 3月31日以前	昭和21年 3月31日以前 (70歳以上)
三級教範	二級教範	平成8年 3月31日以前	昭和21年 3月31日以前 (70歳以上)

●梅花流書籍・CDについて

曹洞宗ブックセンターにて梅花流書
籍・CDの頒布を行っております。お求
めの際は左記までお問い合わせください。

・フリーダイヤル

0120-4981-971

(受付時間／午前9時～午後5時)

(休日／土日ならびに祝日・年末年始)

・FAX

03-3768-3561

(24時間受付)

